



Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。 <http://www.amsl.or.jp>

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@oki-zamami.jp



●大きなものに身を寄せて

ーカクレエビの仲間ー

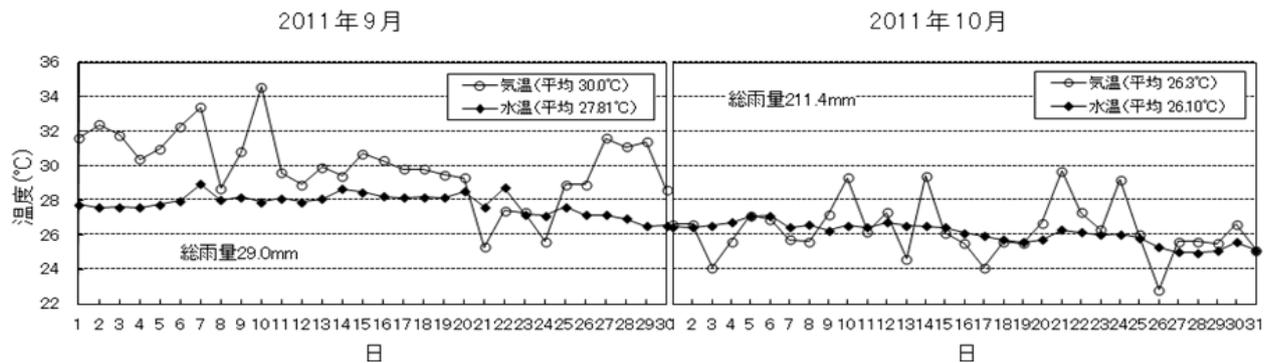
11月上旬、あか・げるまダイビング協会の人たちとモニタリングサイト1000の調査をおこないました。これは、慶良間のさんご礁の様子を調べるもので、毎年おこなっています。現在調査結果を整理中ですが、去年は12地点中1地点で、しかも1個体しか見つからなかったオニヒトデが、今年は10地点中（あと2地点はこれから調査する予定です）3地点で見つかり、そのうちの1地点では3個体もいました。このまま増えていく可能性もあるので今後注意してみていく必要があります。そう言えば、この夏の間、研究所で調査中のサンゴのすぐそばでも、けっこうたくさんのおニヒトデを見ました（全部で20~30個体くらいになるでしょうか）。せっかく調べているサンゴを食べられては困るので駆除しようとかまえたところ、オニヒトデの棘の間をスルスルと動き回る生き物がいます。なん

だろうとじっと見てみると、オレンジ色の体で背中（お尻）の白いエビでした（冒頭の写真）。今回は、このエビの仲間についてお話ししましょう。

このエビは、ヒトデヤドリエビという名前です。つかまえたオニヒトデをひっくり返しても、振っても、おもいきってピンセットで棘の間を追いかけてまわしても、いっこうにオニヒトデから離れようとしませんから、その名前のお通り、よっぽどヒトデのことが気にいっているのでしょうか。本によると、オニヒトデだけでなくアオヒトデやマンジュウヒトデにもいるらしいのですが、それらのヒトデには身を守ってくれる棘もないのに、なぜヒトデについているのか不思議です。

慶良間の海には、これまでに名前がわかっているエビの仲間（コエビ下目というグループ）が103種いますが、その多くは2つのグループ、テナガエビ科とテッポウエビ科のエビです。具体的には、テナガエビ科が37種、テッポウエビ科が49種で、合わせると86種になり、全体の83.5%を占めていますから、この2つは慶良間周辺でたいへん栄えているグループと言えます。そして、もっとくわしく調べてみると、テナガエビ科の37種のうちの35種はカクレエビ亜科というグループに属していました。ですから、テナガエビ科と言うよりも、カクレエビ類が栄えていると言った方が正しいかもしれません。

定点観測



例のヒトデヤドリエビも、このカクレエビ類の 1 種で、ヒトデにかくれて暮らしているわけです。そして、ほかのカクレエビ類も、多くは別の無脊椎動物にかくれて生活しています。かくれる相手は、カイメン、ソフトコーラル、イソギンチャク、造礁サンゴ、ウミウシ、二枚貝、ウミシダ、ウニ、ナマコ、ヒトデ、ホヤなど、種によってじつに様々です。カクレエビ類の繁栄は、いろいろな動物を宿主として上手に利用したせいでしょう。

カクレエビ類には、体の色が宿主の色とそっくりなものが数多くいます。ガンガゼにすむガンガゼエビ(写真 1) やミカドウミウシにすむウミウシカクレエビ(写真 2) などはその例です。きっと自分の姿を隠すための工夫に違いないでしょうが、どうやって宿主と似た色になるのか、そのメカニズムはまだわかっていないようです。もしかしたら、ここにこの類の繁栄の秘密があるのかもしれない。



カクレエビ類については、どうしてももう 1 つお話ししなければならないことがあります。それは、慶良間で発見された新種のことです。学名がニッポントニア・ミニロストリス (*Nippontonia*

minirostris) という種で、野村恵一さんというエビ研究の専門家がニシハマの黒いカイメンから採集したものです。世界で初めて阿嘉島で見つかったので、和名はアカジマニホンカクレエビとつけられました。そして、それ以外にも 6 種のカクレエビが日本で初めて、慶良間で見つされています。それは、野村さんをはじめとした研究者たちの努力のおかげでもあります。慶良間にすむカクレエビ類の豊かさを物語っているでしょう。野村さんは、生きたサンゴの中などのエビの調査はまだ不十分なので、もっとたくさんの種が見つかる可能性があるとおっしゃっています。カクレエビ類のようにほかの動物とともに生きるものにとっては、さんご礁全体が良い状態であることが重要です。いつまでもたくさんの種類のカクレエビのすむ慶良間であってほしいと思います。

● 阿嘉島の海より

11月4-6日に那覇市で開催された第14回日本サンゴ礁学会で、阿嘉島臨海研究所の大森信所長が、長年のさんご礁研究への貢献が評価され、学会賞を受賞しました。受賞後の記念講演では、大森所長の阿嘉島での研究活動やさんご礁に対する熱い思いが語られました。

